

学校法人 日章学園 鹿児島育英館中学・高等学校 学校評価 総括評価表

建学の精神 一、道義に徹し 一、実利を図り 一、勤労を愛す

学校教育目標 「自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、個性や能力を發揮し、自己実現をめざす生徒を育成する」

目指す学校	①豊かな環境で、感性と心を育てる学校 ②個性や能力を磨き、鍛え、伸ばす学校 ③温かい雰囲気を保ち、師弟同行で歩む学校 ④地域に開かれ、誰からも信頼される学校	育てる生徒像	「常に英才たれ」 己を愛し、人を愛し、大志をもって生きる、実行の人	重点目標	① 志は高く、思いやりの心を持ち、前向きに生きる ② TPOに応じた明るく元気なあいさつのできる ③ 文武両道をめざし、何事にも粘り強く努力する ④ 心身共に健康であり、額に汗する勤労を愛する ⑤ 母校愛や郷土愛に燃え、地域、家族に感謝の念をもつ	① 学習のてびきを適時活用し、保護者と協働して、自走学習を定着させる ② 道徳、学活を充実させ、学習意欲や所属感を高める学級づくりを工夫する ③ 美化意識の高揚を図り、整理整頓された学校を目指して、異年齢集団縦割作業を徹底する ④ 助け合い活動の機会を増やし、言語活動を活性化し、教え、学び合う集団を育てる ⑤ 自己肯定感を高め、協働のよさを体感する学校行事、教育活動を積極的に展開する	評価基準 4：十分達成できている 3：おおむね達成できている 2：どちらかというと達成できていない 1：ほとんど達成できていない	概評基準 A：4.0～3.2 B：3.2～2.4 C：2.4～1.6 D：1.6～1.0
-------	---	--------	--------------------------------------	------	---	---	--	--

重点目標	評価項目	具体的な方策	評価	成果	課題
------	------	--------	----	----	----

一 基本 的 生 活 習 慣 の 確 立	望ましい生徒像は明確であるか	①明るく元気よくあいさつできるか ②お互いのよさを認め合う態度はできているか	A B	・中学、高校、学年問わず、あいさつをよくしてくれている。 ・来客者にも適切な声で挨拶をしている。 ・学年の成長段階に違いはあるが、学年相応の相互尊重もできている。特に高校生は模範となる生徒を称賛する場面が多かった。 ・いじめアンケートなど、定期的にアンケートを実施できた。	・TPOに応じたあいさつができるとなお良い。 ・あいさつができる生徒とできない生徒の差が顕著（特に高校生と特進コースの一部に課題あり） ・道徳や学活・LHRなどで他人を責めるのではなく、長所を見つける練習を増やす方がよいと思う。
	保護者等との連携はとれているか	①教師と保護者との連携はとれているか	A	・各担任・部活動顧問を中心に、密に連絡がとれており、生徒のために尽力できている。必要に応じて面談などもできている。 ・Classiやマチコミ、BLENDなどを使い、週報の配信・個別メッセージでの連絡などができている。	・日常の情報交換が不足すると、言葉・やりとりの行き違い（勘違い）が出てくる。一方的な連絡になりがち。 ・中学校では連携が特に必要。生徒への連絡事項等が保護者へ伝わらない場合も多く、担任に限らず 中学部全体で連携していきたい。
	マナーやルールは守られているか	①J Rや通学バス利用時のマナーやルールは守られているか	A	・外部からの指摘や苦情クレームなど、昨年より改善された。むしろ、お褒めの言葉を頂いている。 ・駅で困っている方を助けた生徒がおり、お礼のお手紙を頂いた。	・自分の周りのことまで考えられると、気持ちの良い乗車になる。 ・公共の場での生徒の言葉使いなどを新入生を含めさらに指導徹底する必要がある。
		②情報セキュリティ等に関するモラル教育はなされているか	B	・情報モラルの講演会や道徳の時間を利用して、教育の場を設けている。 ・授業でSNSの付き合い方等について話し合うことができた。	・iPadの使用について課題が挙がるが多かった。学習に使うことがメインであるため使い方を徹底して教える必要がある。 ・中学校でもiPadなどを積極的に活用できる環境づくりが必要である。 ・情報セキュリティについては日々進化している。今後は、生成AIについての活用と指導が求められる。
		①校舎や校庭はよく清掃されているか	A	・師弟同行、無言作業の徹底と、自主的な取り組みが見られる。 ・愛校デーを定め、定期的に清掃をしている。美化活動を機会に、愛校心も育んだ。 ・花の手入れなども定期的にされていた。	・掃除のやり方について、分かっていない生徒が年々増えつつあり、やることがわからず手持無沙汰になる生徒が見られる。学年投書や折を見てのオリエンテーションが学年問わず必要である。 ・校庭の掃除が体育祭前だけではまかない切れていない。
		②校内の掲示は適切になされているか	A	・各教科、各部で工夫し、生徒たちの関心を引くような掲示を心がけている。 ・随時英字新聞などを更新して、タイムリーな情報がその都度入れ替わっている。 ・生徒会活動の掲示物などが工夫されてきた。	・季節に応じた、各教科の作品や案内等を増やしていきたい。 ・機能していない掲示板も見られるため、掲示物のアップデートを各教科でさらに工夫したい。生徒作品があってもよい。
		部活動	①部活動をととして生徒の成長はみられたか	A	・部活動を通して、心身ともに成長が見られた。全国大会に結び付いた部活動も中高ともにあった。 ・部活動内での指導により、上下関係や礼儀作法、規律が身についている。 ・学習をおろそかにしない部活動生が増えた。
	教育相談	①養護教諭と連携はとれているか	A	・スクールカウンセラーとの連携も取れている。また、ケガや病気、メンタル面も含め連携は取れている。 ・生徒もよく相談に行き、適切に指導されている。 ・問題が起きた時の解決法や様々な症状を随時相談したり、些細なことでも情報を共有し個々に応じ指導を行っている。	・現状課題となるようなことは見られない。

二 学 習 習 慣 の 確 立	年間指導計画は活用されているか	①シラバスに基づいた指導がなされているか	A	・シラバスに基づいた指導・年間計画どおりに実施することができた。また、理解度にも重きを置いている。 ・進捗よりも少し先を行き、応用や復習、模擬試験対策を取り入れた。 ・不足分の時数の補講を実施することができた。	・曜日によって休日が重なることや行事が木曜日に偏る傾向がある。学期ごとに調整すべきである。 ・進捗が遅い教科も見られた、各教科並びに教科間でも確認が必要。
	自己実現の基盤となる力	①主体的に対話的で深い学びとなる授業展開がなされたか	A	・教科部でよく相談しながら、各クラスの実情に合わせた授業が行えている。生徒が主体的に問題に取り組んでいる。 ・どの教科の先生がたも工夫を凝らした授業をされていると思う。中高、習熟度別学習ができる教科は習熟度別で、できない教科は学力差がありながらも展開している。 ・私学教育研究大会では英語科・社会科を中心に、他の私学に本校の教育の素晴らしさを示すことができた。	・生徒がやや受け身になりがちな教科指導になる傾向がある。 ・進捗なども考えながら、授業のパリエーションについては、更なる研究が必要。
		②学習の仕方を指導し、生徒の自学自習を定着させることができたか	B	・宿題をある一定量で出すことで、強制的に学習時間を確保することができている。個人添削も行っている。 ・学期ごとに進路・教育相談期間を設けることで、生徒の学習の様子を聞く機会が増えたことで、相談期間以外でも学習について話すようになった。 ・欠点者の対応を徹底したことにより、学習意欲を高められた。	・指導は随時行っているが、定着が難しく、学習の仕方や自分なりの学習方法が定着しない課題のある生徒も多い。 ・中学生を中心に宿題を終わらせることに終始する傾向がある。家庭学習について、家庭との連携が必要である。
	英語教育の推進	①中学校で英検3級、高校生で英検2級取得に努めているか	A	・英語科を中心に面接指導等実施。半数以上の生徒が目標を達成することができた。資格取得に積極的に臨む姿勢を見ることができている。 ・英検だけではなく、他の検定にも取り組ませることで、それぞれの生徒に合った学習方法の指導に努めている。	・中学特進コース・高校生は、英検資格取得に積極的である。 ・中学体育コースの受験率を上げるためには、保護者との連携も必要である。また、スモールステップを設け、受験を促す必要がある。
		②校内の掲示物や表示を英語で表記し、英語学習の環境作りに寄与しているか	A	・英語を常に意識できるよう環境整備しており、英語が身近に感じられる環境である。 ・英字新聞を掲示し、更新している。 ・各クラスの掲示物のタイトルなど、英語表記で作成された。	・掲示はされているが、読み方や意味を理解できているかが不確かであるので、指導の工夫が必要である。また、定期的な見直しも必要である。
	土曜錬成講座について	①学習教材や教師の指導法に工夫が見られるか	A	・授業で扱えないこと（模試対策など）を中心に、時間をかけて取り組めた。また、中学生には高校の範囲まで指導できている。 ・より探究心をもって課題に取り組んでいる。 ・中学3年生と高校1年生の合同での授業を行うことができた。	・学力向上を達成するためにも、常に研究や研修が必要である。 ・近年の入学試験の傾向を踏まえ、教科の枠にとらわれない、授業を展開する必要もある。
		②生徒は意欲的に取り組んでいるか	B	・普段の授業とは違う観念の授業が展開されるため、新鮮さを感じている生徒も多いようで、錬成講座の方が好きだと話す生徒もいる程の充実の内容となっている。	・普段の学校生活に比べ、欠席率が高いクラスが多い。 ・生徒の意欲を感じない部分や週の後半のため疲れが見受けられる。
体育コース（中学校）	①各種大会で実績をあげられるよう指導がなされているか	A	・授業計画の中に部活動の時間が組み込まれていることが、全国大会出場など安定した結果につながり、本校の知名度アップに貢献できている。 ・日々の練習から考えながら主体的に取り組ませており、授業態度の改善などにも取り組み、意欲向上を図っている。 ・各顧問を中心に技術指導だけでなく、学習指導にも力をいれていて、集中力を高める効果が期待できる。	・部活動以外の学習面や生活面に手がかかる部分がある。小学校や家庭との連携が欠かせない。	
基礎学力定着のための10分間テスト	①不合格者への放課後指導がなされているか	A	・追試・補講など、それぞれの教科にあった形で取り組まれている。 ・やりっぱなしにならないように、放課後や昼休みを利用し、合格するまで追試験や訂正、課題などに取り組ませている。 ・点数に応じて指導を変えるなど、各教科で良く取り組まれている。	・やり直しをさせるだけでなく、学習方法への助言を含めて個別指導や放課後指導を充実させる。	
三 進 路 の 実 現	高等学校の個別指導について	①3年間を見通した指導がなされているか	A	・共通テストや個別試験に向け、個別指導を積極的に行っている。 ・1年次から3年後を見据えた学習指導を行うなど、添削指導などを通して3年間継続して指導できている。	・個別に寄り添った進路指導、保護者と担任との連携を深めたい。 ・生徒が継続しなかったり、申し出てこない場合もあり、保護者との認識のズレがある。
		②生徒の志望校合格対策として機能しているか	A	・進路サポートなどで志望理由や文理選択など考える時間を設けている。 ・それぞれの生徒に合わせて、多様化する受験にむけて指導されている。	・大学入試改革により、各大学の試験も多様化している。それに合わせ、教科横断型の指導体制を整えることが重要。 ・学科試験以外の入学試験の割合も増えている。学校としての体制を整える必要がある。
	高校生の進路指導	①主体的にライフデザインを考えられるような仕掛けが工夫されているか	A	・進路講演会などの実施など、定期的に学びの機会を設けている。 ・講演会や探究学習を通して、進路に対する意欲・関心が高まった。 ・生徒の興味関心から大学見学・オープンキャンパス参加に繋げ、将来の職業を検討させている。	・受験指導が主になっているので、夢をもたせる「憧れる職業人」との接点を作っていくたい。 ・宿題の量に関してはもう少し検討してもいいかもしれない。全教科のバランスをみて宿題を考えて、主体的に学習する力も身につけさせたい。
		②高3生全員が志望校に合格するように指導がなされているか	A	・生徒の希望する受験スタイルに応じた受験指導を行っている。面接や小論文対策など。 ・進路検討会や学力検討会を経て、教員全員が対策を話し合う場も受けられるなど、教員がチームとなり進路実現に向けて協力できている。	・多様化する受験スタイルに合わせ、早い段階から対策を行う必要がある。また、教科横断型のプロジェクトが求められる。
	中学生の進路指導	①進路計画に沿った指導がなされているか	A	・育英館並びに城西高校の説明会を実施することができた。 ・中高一貫教育を目的として年間計画に沿って中学1年時から実施し、意識づけさせている。 ・中学1年段階から高校を意識できるのは、中高一貫の強みである。	・特に体育コースの中高一貫には、成績や生徒指導の状況の共有など、鹿児島城西高校との更なる連携が必要。
②キャリア教育を充実させるため、職場体験学習等が活用できているか		A	・職場体験や社会科見学を通じて、発達段階に応じたキャリア教育を充実させることができている。 ・職場体験では、より広く社会を知るために、広範囲の職種を選択し、実施できている。 ・総合などの時間を利用し、校外学習にも積極的に取り組めた。	・事前・実施・事後のねらいを明確にした指導。そして職業選択に向け、自分の特性を知り、進学先の情報収集など、主体的な学習を心がける。 ・実習先の選定について、もう少し吟味してよい。	
四 生 徒 募 集	生徒募集	①定員確保のための活動ができていますか	A	・中学校は5年連続で募集定員確保を達成することができた。高校も昨年を上回ることができた。 ・インスタグラムの更新のため、情報提供を常に行うことが出来た。 ・卒業生や保護者ともつながり、兄弟関係や親子での入学者も増えている。	・自分の担当地区では、中学校と連携して、推薦や専願者を増やす取り組みを進める。 ・入学者も増えてはいるが、高校は定員確保には至っていない。さらなる「育英館」の魅力発信に努めたい。
		②退学者を出さないよう努めているか	A	・生徒が気軽に声をかけられるように、距離感を縮めて過ごすように心がけた。 ・学年始めや学期終わり、行事の前後など、定期的に教育相談や個別面談を実施している。 ・生徒との面談、教員との情報共有でチームとして取り組んだ。	・事前に声掛けや先を考えた進路指導などで、個別の困り感を解消するように努める。 ・退学者が出た場合、その後の反省や次への方策を、全職員で共有することが必要。 ・退学者を出さないため、担任だけでなく中高職員がチームとなって進路指導に当たる必要がある。